

名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 永広和夫 氏

一般社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、大阪製鐵株式会社元社長 永広和夫氏は、令和元年1月13日に逝去されました。享年74歳。逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は、昭和43年3月東京大学工学部冶金学科卒業後直ちに富士製鐵株式会社入社。45年新日本製鐵株式会社発足後に、52年ノースウェスタン大学マテリアルサイエンス修士課程修了、名古屋製鐵所薄板管理室長、本社薄板技術部冷延技術室長、平成4年インランドスチール社、6年名古屋製鐵所薄板部長、本社知的財産部長を経て11年取締役広畑製鐵所長、13年取締役名古屋製鐵所長、15年常務取締役、17年代表取締役副社長、19年技術開発本部長を歴任し、大阪製鐵株式会社代表取締役社長、26年相談役退任まで、各要職を歴任されました。

氏は、薄板、特に自動車用高強度鋼板（ハイテン）とブリキ原板の製造技術と一貫品質管理手法を取り入れた品質造り込み技術を確立し、世界各国の製造拠点到展開し根付かせる基盤を築くなどの手腕を発揮すると共に、ソリューション提案型ビジネスモデルの礎を造るなど鉄鋼業の発展に尽力されました。特に冷延鋼板、溶融めっき鋼板について軟鋼からハイテンまでを処理する画期的な連続焼鈍プロセスの開発に携わり、近代的な高品位・高生産性設備の実現に至らしめました。

また、一貫品質管理・ソリューション技術では、鋼片から鋼板までの各工程別歩留を一貫で管理して向上を図る方法を導入、現在の対粗鋼一貫歩留管理手法の礎を築かれました。また、需要家の厳格な品質要求に対応するため、ハイテン商品ラインナップ拡大、鋳物・鍛造部品のプレス製法化と併せ、需要家の車体設計段階から使用材料を提案するソリューションセンター構想を整え、需要家へ最適材料を提案する新しいビジネスモデル構築に大きく貢献されました。

更に、薄板事業のグローバル展開への貢献では、日本の自動車会社の海外展開と共に自動車用鋼板製造技術を海外JV企業へ展開すると共に、日本で確立した鈍鋼圧延一貫での品質管理・製造技術管理体制の移植を推進、容器用素材製造でも日本で確立した製造技術及び品質管理技術を海外において最大限に発揮できる体制を整え、国内外の容器用素材事業拡大に大きく貢献されています。

そして知的財産活動を通じた科学・技術発展への寄与では、知的財産を企業における重要な資産と位置付け、無形資産経営への先鞭をつけると共に、鋼材の設計と併せた利用・加工技術の知的財産化によるソリューション提案型事業構造への転換推進、市場創出・拡大を見据えて競合素材メーカーから需要家までをカバーする技術契約活動を幅広く展開し、技術開発の活性化・スコープ拡大や大型国家プロジェクトの立案・推進に大きく貢献されました。

氏が鉄鋼技術と本会の発展に尽くされた多大な業績を偲び、会員一同、心から哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

令和2年4月
日本鉄鋼協会 会長 田中 敏宏